

米国認定損害保険士（CPCU）の追加情報 およびわが国の資格制度について

海外研修部 次長 木下 弘志

米国出張の機会を利用して米国認定損害保険士（Chartered Property Casualty Underwriter：以下「CPCU」）資格の実施機関を訪問したので、そこで得た情報を紹介する。CPCUについては、2013年4月発行の損保総研レポート第103号で詳しく取り上げられているため、重複する情報は割愛する。最後に、わが国の資格制度について個人的な感想を述べる。

1. 訪問先

2013年8月1日、CPCU等の資格の実施機関である The Institutes を訪問した。The Institutes は自称(ブランド名)であり、正式名称は、American Institute For Chartered Property Casualty Underwriters である。ペンシルヴァニア州のモルバーンという人口約3,000人の町にある。最寄りの鉄道駅から6キロ程度離れた、非常に閑静な場所である。

以下の情報は、すべて、面談相手である The Institutes の EVP（副社長）から聴取したもの、および、面談時に受領したパワーポイント資料に記載されているものであり、ウェブサイトやアニュアルレポートには掲載されていない情報がほとんどである。

2. 面談で得た情報

(1) The Institutes について

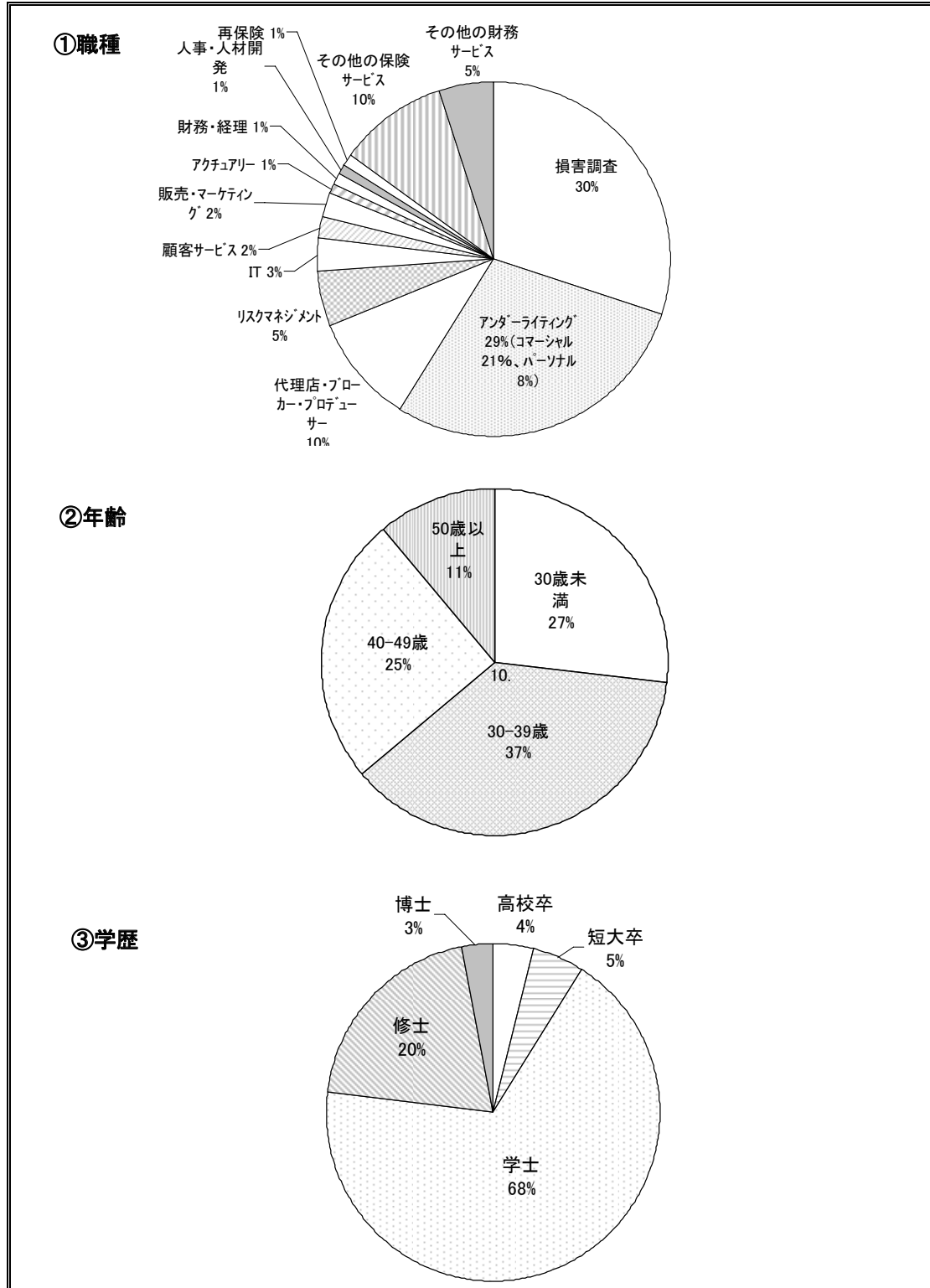
The Institutes の評議員会（Board of Trustees）は、多数の保険業界トップで構成されており（48名）、評議員の所属会社は米国保険マーケットの60%をカバーしている。従って、業界ニーズの汲み上げや協力の確保が容易である。なお、The Institutes の職員は170名である。

(2) CPCU 資格取得者の内訳

CPCU 資格取得者の資格取得時点における職種、年齢、学歴別の割合を図表1に示す。職種では、損害調査とアンダーライティングが多い。年齢層は様々であるが、最近の傾向として、30歳未満の取得者が増加している。学歴は、大学卒が68%、大学院卒が23%となっている。30年前は、大学卒が17%しかいなかった。大学卒が増え、保険以外のことは大学で学んでくる人が多くなったということも、科目数を減らした理由である（筆者注：2003年に科目数が10から8に減り、経済学と経営学がなくな

った)。

図表 1 CPCU 資格取得者の内訳



(出典：The Institute の資料をもとに作成)

(3) CPCU 試験の合格率等

CPCU 各科目の試験の合格率は、平均約 70%である（一回目の受験における合格率であり、再受験を除く）。資格取得者の約 70%が、少なくとも 1 科目の試験に不合格となり、再度試験を受けている。

CPCU 受験者のどのくらいが最終的に資格を取得しているかということについて、参考になるデータがある。資格取得者のほとんどは、最初の受験から 5 年以内に取得しているため、5 年単位でデータを取っている。このデータによれば、受験を始めた人のうち、5 年以内に資格を取得する割合は、約 30%である。但し、CPCU 資格の取得を目的とせず、一部の科目だけ学習するために受験する人も多いので、70%の人がすべて途中で諦めたというわけではない。

なお、学習方法については、資格取得者のうち、10%が通学講座を利用している（通学講座は、CPCU ではなく、各地の教育機関等が提供している）。残りの 90%は、自習のみである。

(4) 資格取得後の継続教育

CPCU 資格取得後に、資格を継続するために定期的に試験を実施するという事は、考えていない。現在は任意である自己申告制の CPD プログラム（Continuing Professional Development）を強制化すべきという意見もあるが、紙の提出という形式だけになってしまうので、意味がないという意見が強い。

(5) 受験者数の変化等

2013 年第 2 四半期の CPCU 新受験者数は、前年同期よりも 30%増加した（通年で 23%増加の見込み。新たに受験を開始した人数であり、図表 2 の受験回数とは異なる）。主因はハワイ効果であるが、ここ数年は毎年伸びているので、それだけの理由ではない（筆者注：2016 年の CPCU 資格授与式は、ハワイで開催される予定であるが、これに出席するためには、前年 7 月～同年 6 月の間に資格を取得する必要がある。資格授与式の出席費用は会社負担の場合が多いので、ハワイに照準を合わせて資格を取得する人が多いと言われている）。

CPCU 以外の資格の受験も増加しているものが多い。各プログラムの 2013 年第 2 四半期の受験回数と前年同期比増減率は、図表 2 のとおりである。

図表 2 各種資格プログラムの受験回数

	プログラム	2013年第2四半期の受験回数	前年同期比増減率
1	CPCU (Chartered Property Casualty Underwriters)	7,227	20.7%
2	AINS (Associate in General Insurance)	4,890	3.4%
3	ETHICS	2,997	5.3%
4	AIC (Associate in Claims)	2,494	18.8%
5	ARM (Associate in Risk Management)	1,933	38.5%
6	PTC1 (Property Technical Certification, 1)	1,042	100.0%
7	AAI (Accredited Adviser in Insurance)	878	▲24.4%
8	IE (Insurance Essentials)	573	8.9%
9	AU (Associate in Commercial Underwriting)	529	▲0.4%
10	INTRO (Introduction to Property-Casualty Insurance)	445	▲11.2%
11	ACSRP (Accredited Customer Service Representative, Personal Lines)	411	152.1%
12	PTC2 (Property Technical Certification, 2)	393	100.0%
13	CAS (Casualty Actuarial Society)	376	18.6%
14	ARe (Associate in Reinsurance)	355	17.5%
15	AIS (Associate in Insurance Services)	305	▲16.0%
16	API (Associate in Personal Insurance)	295	▲12.2%
17	AIM (Associate in Management)	185	6.9%
18	SM (Program in Supervisory Management)	155	6.2%
19	ACSRC (Accredited Customer Service Representative, Commercial Lines)	129	▲41.9%
20	ANFI (Associate in National Flood Insurance)	122	103.3%
21	AIT (Associate in Information Technology)	121	6.1%
22	AFSB (Associate in Fidelity and Surety Bonding)	115	15.0%
23	ASLI (Associate in Surplus Lines Insurance)	112	▲26.8%
24	AU-S (Associate in Commercial Underwriting-Strategic Techniques)	109	100.0%
25	WCCA (California Workers Compensation Claims Administration)	90	▲70.2%
26	UNDWR (Introduction to Underwriting)	79	33.9%
27	CLAIM (Introduction to Claims)	77	▲17.2%
28	Medical Claims	56	▲76.7%
29	APA (Associate in Premium Auditing)	54	10.2%
30	AIAF (Associate in Insurance Accounting and Finance)	50	▲29.6%
31	ACSRL (Accredited Customer Service Representative, Life/Health)	42	133.3%
32	ERM	35	25.0%
33	RM (Introduction to Risk Management)	30	76.5%
34	AMIM (Associate in Marine Insurance Management)	25	▲26.5%
35	IR (Insurance Regulation)	23	▲20.7%
36	RMPE (Risk Management for Public Entities)	10	▲23.1%
37	WCCP (California Workers Compensation Claims Professional)	10	▲90.5%
38	SPPA (Senior Professional Public Adjuster)	7	100.0%

(出典：The Institute の資料をもとに作成)

また、受験に限らず、テキスト購入等、何らかの形で **The Institutes** を利用した人の総数は、2011 年が 102,582 人、2012 年が 115,976 人、2013 年上半期が 61,521 人というように増加している（同年度内では延べ人数ではなく実人数であるが、年度が変われば新たにカウントしている）。一方、保険会社の従業員数は、2009 年と比べて 4.7%減少している（もっとも、代理店・ブローカーの従業員は 3.6%増加しており、全体では 1.3%の増加）。受験者増加の原因として、会社から選別されるという従業員の危機感が高まっていることが考えられる。

一方、CPCU 協会（資格取得者の団体）への新加入者は減少しており、昨年は、資格取得者の半数しか加入しなかった。活動参加者における高齢者の割合が増えているため、若年層が敬遠する傾向にあると聞いている。

(6) テキスト作成

CPCU 以外にも多数の資格を設けているので、各資格で共通する部分も多い。このため、すべての知識を約 8,000 のユニットに分け、テキストごとではなく、ユニットごとに管理し改訂を行っている。

同じ建物内に自前の印刷所があり、テキストの印刷は、注文を受けてから行っている。これにより、常時、最新内容のテキストを提供することができる。

テキストの設計は、専任の職員が、業界の意見を聞きながら行っている。執筆は別の職員が担当するが、執筆担当者がすべて書くわけではなく、パーツごとに業界に依頼している。

(7) 教育機関へのテキスト提供

大学等で使うテキストを作成して提供する業務も行っている。前述の 8,000 のユニットから、先方が希望するユニットを取り出し、先方から提供されたパーツを加えて作成する。テキストには **The Institutes** と大学教官の両方の名前を表示する。

このように作成した大学のテキストと、CPCU 等の科目に同等性があると認定すれば、大学での単位取得を当該 CPCU 科目の試験合格とみなしている。

(8) 資格の国際展開について

CPCU テキストは、いくつかの国で翻訳されている。しかし、米国の資格をそのまま他国に持ち込むことにはこだわっていない。例えばフランスでは、フランスバージョンのリスクマネジメント士（**Associate in Risk Management : ARM** 資格）を設けている。コア部分は米国のもを使うが、法律等、異なる部分があるので、フランスの機関と提携して、テキストと試験問題の作成を行っている。CPCU ではまだこのような例はないが、今後検討していく。

3. わが国の資格制度について

CPCU 資格を取得した経験に基づき、わが国における資格制度について、感想を記す。筆者の個人的感想にすぎず、損保総研の見解ではない。

わが国でも CPCU 資格に挑戦する人が増えている。日本にいながら CPCU を取得するのは、米国で CPCU 資格を取得した筆者に比べ、より強い意志と能力が必要であるに違いない。本当に敬意を表する。CPCU を終えたとき、保険知識も英語力も、数段向上しているはずである。しかし、当然のことだが、CPCU ではなく、日本語で、日本の保険を前提にした勉強をしたい人の方が、ずっと多いであろう。

わが国では、損害保険全般を学ぶ手段として、損保総研が運営する損保本科講座があるが、米国の CPCU のような資格制度はない。損保本科講座は、入社後早い段階で受けるコースであり、受講者全員が修了することを想定している。その後、何年か実務に従事した後で、改めて保険全般を体系的に勉強したいと思う人もいるだろう。実務に精通してから行う勉強は、入社 2 年目で勉強する損保本科講座とは、また違う意義があると思う。そうしたとき、CPCU のような資格制度があれば、勉強を始めやすいし、また、続けやすいであろう。人は（少なくとも筆者は）本質的に怠け者なので、目に見える目標（挑戦できる資格）が必要である。

「業務に必要なのは資格ではない。実践によって経験を積むことである。」と考える人も多いと思う。米国でも、CPCU は、Cannot Produce, Cannot Underwrite だと言われていた。しかし、これはある意味で当然であり、資格を取ったら急に仕事ができるようになるのなら、こんなに楽なことはない。資格は目的ではなく、勉強のための一つ的手段に過ぎない。「実践がすべて」といっても、実践を支える理論は必要であろう。また、日常業務から一步離れて、その理論的側面を取り出して吟味するということが、たまにはあっても良いと思う。そうすれば、今の実務を批判的に見ることもできるし、保険業務に携わっていることの誇りも持てるだろうし、仕事のやりがいも増すに違いない。それに、保険という知的な業務に従事するからには、その知的側面を少しは楽しみたいものである。

日本で資格制度を作る場合、どのようなものが良いだろうか。まず、CPCU のように、ある程度難易度が高いことが必要である。誰もが受かるものであれば、挑戦意欲も湧いてこない。また、業務多忙の人が多いため、空いた時間を見つけて勉強すればよいように、講座に通うことを要件とせず、試験だけで資格取得できるようにした方が良いのではあるまいか。もちろん、学習方法は人によって違うから、通学講座や WEB 配信等の講座が準備されていることが望ましいと思う。

自習を前提とするのであれば、教材も工夫する必要がある。CPCU の優れた点は、第 1 に教材にある。テキストもよくできていると思うが、テキストとは別に「コースガ

イド」というものが用意されている。テキストの章ごとに、キーワードや短い質問が並んでいるだけのものなのだが、これらを理解すれば、テキストの重要ポイントを理解したことになり、従って、試験に合格できるようになっている。筆者などは、テキストを通読しても頭に入らないし、途中でいやになってしまうが、コースガイドで湧いた疑問点を解決するためにテキストを調べるのは、面白かった。

勉強しようかと思ったけれども、挑戦すべき資格がないために、忙しさの中でとっかかりがつかめないでいる人が、きっといると思う。そうだとすれば、とても残念なことである。